

第 39 回土木計画学研究発表会（春大会）：2009. 6. 13～14（徳島大学）

スペシャルセッション（SS）討議内容の記録

セッション名：本気で考える国際交通とシームレスアジア～土木計画学の果たすべき役割とは？～	
日付： 6月14日（日）曜日，セッション時間： 8:30 ～ 10:00	
オーガナイザー名（所属）：柴崎隆一（国土技術政策総合研究所）	
討議内容	<p>1. 「シームレスアジア時代の土木計画学への期待」（東京大学教授 吉田恒昭）：東アジア地域経済の現状等を踏まえ、アジア諸国の相互依存の増大・分業化の進展やなお存在する地域間格差について触れ、共通目標達成の手段としての越境インフラ整備や越境交通計画の重要性を強調した。そのうえで、国際機関の ADB や ESCAP の視線はせいぜい数年先までであり、アジアには国際交通計画・執行・監理・評価などに携わる国際行政組織がなく、このようなことを行うことが我々の今後の挑戦課題であるとまとめられた。</p> <p>2. 「東南アジアにおける物流の実態と企業のニーズ ～アセアン物流ネットワークマップ作成の現場から～」(JILS 総合研究所副所長 吉本隆一)：ジェトロのアセアン物流マップ作成にあたり、最近のアセアンや東アジア地域における国際物流の動向や荷主のニーズについて紹介したうえで、物流ネットワーク再構築の視点から、「アウトソーシングで見えなくなったデータの見える化」や「ドアツードアの輸送モード選択」というキーワードが提示され、費用の中では陸送費のシェアが大きいこと、金銭的費用よりも所要時間のウェイトが高いこと、さらに費用や時間以外にもさまざまな要因があること等が指摘された。</p> <p>3. 「東南アジアにおけるインフラプロジェクトの評価と課題」（三菱総合研究所研究員 加藤二郎）：東アジア地域における国際協力における土木計画的業務の一例として、アセアン諸国における物流インフラプロジェクトについて、重点プロジェクト選定を効率的・効果的に行うためのガイドライン検討の例を紹介した。課題として、各国の交通統計資料が不十分・定義が異なることや、誰にでも簡便に評価できる客観性を持った評価項目や指標の設定が困難であることが指摘された。</p> <p>4. 「政策シミュレーションモデル構築の立場から見たデータ整備の必要性」（国土技術政策総合研究所主任研究官 柴崎隆一）：東アジア全域を対象としたインフラ政策評価のための国際物流モデル構築にあたり、地域間貨物需要や輸送費用に関するデータの精度向上によりモデルの再現性がどの程度向上するかについて紹介した。結果として、データの精度向上によってモデルの精度は向上するものの、あるひとつのデータの精度が向上したからと言ってモデル精度が劇的に向上するわけではないことや、データの性質により影響範囲（物流系全体か、国内流動レベルか等）が異なることが示された。</p> <p>5. 「シームレスアジア行政を担当する立場から学会に期待すること」（国土交通省 国土計画局計画官 八鍬隆）：シームレスアジアに関する行政（国土形成計画）を担当する立場から、これまでの取り組みや今後の学会への要望が示された。</p> <p>6. ディスカッション</p> <p>進行役の家田東大教授より、我々が今後行っていくべきこととして、①公共交通政策等の政策立案のサポート、②データ共有化に向けた議論（見える化の進展、デファクトスタンダードの確立、データ取得技術の検討等）、③今後の展開において Dimensioning Point（ボトルネック）となる事項の発見、④次善のデータを用いた政策シミュレーションの実施、の4点があげられた。</p>